

気候変動の潮流を見据えた塗料のスコープ3とLCA

Scope 3 and LCA of Paints with Climate Change Trends

松下 雄治、池田 芳恵

Abstract

Carbon pricing, a keyword of climate change, means that increases and decreases in GHG emissions of a corporate will have financial impacts. Nippon Paint Group contributes to the sustainability of a wide range of industries by reducing GHG emissions throughout the supply chain with quantitatively understanding Scope 3 and Life Cycle Assessment.

キーワード：スコープ3、カーボンプライシング、ライフサイクル、LCA、GHG

Keywords : Scope 3, Carbon pricing, Life cycle, LCA, GHG

1. はじめに

気候変動、人権問題、コーポレートガバナンスなど様々なサステナビリティへの対応は、不確実性と変動性が高まるVUCAの現代において、企業が成長基盤を構築するための一要素となってきた。その背景として、2015年に国連でのSDGs採択、COP15（国連気候変動枠組条約締約国会議）でのパリ協定合意などが挙げられ、これらを筆頭にして国際的に目指すべき方向性が明示された。また、同年にGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）がPRI（国連責任投資原則）へ署名¹⁾した。GPIFは資産運用総額150兆円を超える世界最大規模のアセットオーナーであり、投融資においてもサステナブルなビジネスを後押しする動きが加速した。

本来、持続可能性の意味を持つサステナビリティという言葉は広範囲の事象を含んでいるが、本論ではカーボンニュートラルや温室効果ガス（以下、GHG）削減に代表される気候変動への対応にフォーカスし、さらに塗料製造の視点から、企業の対応について解説する。

2. 気候変動の潮流

企業は脱炭素に向かう国際的な潮流の中で、GHG削減目標を設定した上で、その実績を開示することまで求められている。また、世界各国ではGHG削減を加速させるべくカーボンプライシングに関わる諸制度の整備が進みつつある。

2.1 GHG削減目標

昨今はパリ協定に沿った、あるいはこれを意識したGHG削減目標を公表する企業が増えてきている。具体的には、パリ協定で示された「世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度より十分低く保ち、1.5度以内に抑える努力をする」との長期目標²⁾、あるいは2018年に

2024年7月12日受付
MATSUSHITA Yuji, IKEDA Yoshie
日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社